

あしや

広報

1997年 10月15日号
(平成9年)

No.734

毎月1日・15日発行

発行/芦屋市役所(広報課)

☎0797-31-2121

〒659 兵庫県芦屋市精道町7番6号



10月1日から通称『ポイ捨て禁止条例』がスタート

10月1日は、午前7時30分から市内4駅で啓発キャンペーンが行われ、9時からの記念式典の後引き続き、第24回秋のわがまちクリーン作戦が行われました。クリーン作戦には約1800人のかたが参加し、約4300キログラムのゴミを回収しました。

わが家の耐震診断講習会

日時 10月27日(月)

午後1時30分～4時20分

場所 尼崎市防災センター3階多目的ホール
(尼崎市昭利通2-6-75)

定員 100人(先着順)

申し込み 電話またはFAXで下記へ

問い合わせ 兵庫県住宅建築総合センター

建築防災課 ☎078-252-3983 FAX.078-252-0096

補助対象経費
耐震診断または予備調査に要する経費

補助対象
昭和五十六年五月三十一日以前に建築された補助対象建築物の所有者(区分所有物の場合は、管理組合等の団体。分譲の共同住宅、一戸建て住宅を除く)

補助対象
昭和三十九年三月三十一日以前に建築された補助対象建築物の所有者(区分所有物の場合は、管理組合等の団体。分譲の共同住宅、一戸建て住宅を除く)

補助対象
昭和三十九年三月三十一日以前に建築された補助対象建築物の所有者(区分所有物の場合は、管理組合等の団体。分譲の共同住宅、一戸建て住宅を除く)

補助対象
昭和三十九年三月三十一日以前に建築された補助対象建築物の所有者(区分所有物の場合は、管理組合等の団体。分譲の共同住宅、一戸建て住宅を除く)

補助対象
昭和三十九年三月三十一日以前に建築された補助対象建築物の所有者(区分所有物の場合は、管理組合等の団体。分譲の共同住宅、一戸建て住宅を除く)

補助対象
昭和三十九年三月三十一日以前に建築された補助対象建築物の所有者(区分所有物の場合は、管理組合等の団体。分譲の共同住宅、一戸建て住宅を除く)

補助対象
昭和三十九年三月三十一日以前に建築された補助対象建築物の所有者(区分所有物の場合は、管理組合等の団体。分譲の共同住宅、一戸建て住宅を除く)

補助対象
昭和三十九年三月三十一日以前に建築された補助対象建築物の所有者(区分所有物の場合は、管理組合等の団体。分譲の共同住宅、一戸建て住宅を除く)

補助対象
昭和三十九年三月三十一日以前に建築された補助対象建築物の所有者(区分所有物の場合は、管理組合等の団体。分譲の共同住宅、一戸建て住宅を除く)

補助対象
昭和三十九年三月三十一日以前に建築された補助対象建築物の所有者(区分所有物の場合は、管理組合等の団体。分譲の共同住宅、一戸建て住宅を除く)

補助対象
昭和三十九年三月三十一日以前に建築された補助対象建築物の所有者(区分所有物の場合は、管理組合等の団体。分譲の共同住宅、一戸建て住宅を除く)

補助対象
昭和三十九年三月三十一日以前に建築された補助対象建築物の所有者(区分所有物の場合は、管理組合等の団体。分譲の共同住宅、一戸建て住宅を除く)

補助対象
昭和三十九年三月三十一日以前に建築された補助対象建築物の所有者(区分所有物の場合は、管理組合等の団体。分譲の共同住宅、一戸建て住宅を除く)

防災工事に対する

資金融資のあっせん制度

問い合わせ 開発指導課 ☎2071

芦屋浜の液状化やがけ崩れ、土砂の流失などの被害を受けた既成宅地の所有者が、住宅金融公庫から防災工事の融資を受けた場合、その工事資金の不足分について、市が金融機関へ融資のあっせんを行います。

対象 次の①～⑥の条件をすべて満たすこと

- ① 自己の用に供するため、既成宅地の防災工事を行うかた
- ② 急傾斜地等について県知事から勧告または改善命令を受けたかたで、
- ③ 住宅金融公庫の災害復興宅地資金融資または宅地防災工事資金融資を受けることができるかたで、同融資の申し込みを行ったかた
- ④ 融資金の償還・利息の支払いについて支払い能力を有するかた
- ⑤ 市税を滞納していないかた
- ⑥ 金融機関の融資基準に適合するかた

特定建築物等の耐震診断への補助

問い合わせ 開発指導課 ☎2071

多数の人が利用する一定規模以上の建築物(特定建築物)については耐震診断および改修が義務づけられています。所有者が特定建築物等の耐震診断または予備調査を実施する場合、その費用の一部を補助します。

補助対象

- 昭和三十九年三月三十一日以前に建築された補助対象建築物の所有者(区分所有物の場合は、管理組合等の団体。分譲の共同住宅、一戸建て住宅を除く)
- 地域防災計画に位置づけられた避難施設
- 木造賃貸住宅(共同住宅・長屋) それぞれの建築物によって、延床面積や補助限度額等の条件、補助率等が異なります。
- 補助事業期限 平成十三年三月三十一日(木造賃貸住宅は平成十一年三月三十一日)までに事業が完了するもの

教育委員長に 朝日千尺氏を選任

市教育委員会は、10月3日の教育委員会で委員長選挙を行い、朝日千尺氏を選任しました。任期は、10月5日から1年間です。

プロフィール —
朝日千尺(あさひちせき)氏
65歳 近畿大学教授
平成3年11月から市教育委員



問い合わせ 教育委員会総務課 ☎38-2085

消防ポンプ自動車を受納

問い合わせ 消防本部通信装備担当 ☎32-2345

九月四日、社団法人日本損害保険協会から市に消防ポンプ自動車(寄贈され、消防署に配備されました)が寄贈されました。この消防ポンプ自動車は、二トン級消防専用シャーシ・四輪駆動車をベースにしていますので、山岳地における消防活動や情報収集活動での活躍が期待されます。



共同募金とポイ捨て禁止 市長からのメッセージ 23

十月一日、抜けるような青空、まぶしいほどの太陽の輝き、JR芦屋駅北側のベドストリアンデッキから美しい六甲の山が見え、さわやかな朝でした。八時半、芦屋市共同募金会による街頭募金が始まり、私も駅前でお手伝いをしました。出勤・通学を急がれるかたがたにご協力を呼びかけるのにはちよつと気がひけますが、震災の時、街頭にたつて集めた義援金ですと全国各地からお届けいただいたことを思いだし、少しでもお役にたてばと声を張りあげ、多くのかたのご協力をいただきました。

半世紀にわたる共同募金はすっかり定着し、昨年芦屋市共同募金会では、千二百九十九万円の募金があったとのことで、この募金は主に芦屋市社会福祉協議会の事業費として配分され、福祉活動の推進に有効に活用されていると聞いております。ご協力に感謝申し上げます。

▽続いて九時前、続々と「捨てないで!あなたのマナー」ののぼり旗を持ち、「ポイ捨て禁止」のゼッケンをつけたかたが約百五十人がベドストリアンデッキに集まりました。市の「空き缶等の散乱防止に関する条例」(通称「ポイ捨て禁止条例」)施行記念式典および啓発キャンペーンです。セレモニーの後、自治環境協議会からの市民のかたがたや市職員約千八百人がクリーン作戦を実施、ポイ捨てされた空き缶・タバコの吸殻などが拾われて美しい街になりました。

地方自治体において、早くから美観条例・美化条例を制定していたところもありましたが、本市では、比較的ゴミのポイ捨ても少なく、美化条例を作るほどの必要はありませんでした。ところが震災後、交通マナーの低下と同様、空き缶やタバコの吸殻のポイ捨て・飼いのフンの放置など、マナーの低下が目立ってきました。

このため本年三月、「ポイ捨て禁止条例」を制定しました。条例には罰則規定はありませんが、違反者には市が勧告したり、市民参加による美化清掃活動を実施するなどして、市民のかたがたの手により、ゴミや犬のフンのない清潔で美しい街づくりを進めてまいりたいと存じますのでよろしくご協力ください。捨てないで、貴方の街への思いやり。持ち帰ろう、フンは心の落し物。

芦屋市長 北村 春江

教育のページ

このページの問い合わせは
学校教育課(☎38-2087)へ

第13回英語祭の開催

日時 11月12日（水）
15時30分開演
場所 市民センター219室
内容 (1)市立中学生による
英語暗唱・スピーチ
(2)市立中学・高校生
海外派遣の報告

文化・スポーツの秋

2学期は、子供たちが自分自身を思う存分のびのびと表現し、たくましく心豊かに成長していく時期です。
「自由研究・教育活動展」や運動会・体育大会が開催され、教育活動で培った力が会場いっぱいに披露されています。各学校園においては、日頃から、保護者や地域とのふれあいや結びつきを大切に活動が展開されています。

環境に目を向けた作品も展示

「自由研究・教育活動展」が開かれました

九月十三日～十五日に、市民センターの新しい展示ロビーを会場として、自由研究や立体工作等の展示を行いました。震災のため、ラ・モール芦屋で展示していた過去二年間より、数多く出品され、新しい展示場が一段と作品を引き立てていました。連休ということもあり、家族みんなで訪れる姿や、敬老祝賀会の帰りに訪れる高齢者の姿などが見られ、会場が和やかな雰囲気にも包まれていました。

「自由研究」は、発達段階に応じた工夫があり、作成過程の努力や熱心に継続する探究心が表現されていました。内容的には、生活に密着したもののや身の回りの環境に目を向ける傾向があり、現代の世相を如実に現しています。

「活動記録展」は、自然や体験活動の中での園児・児童・生徒の自主的な活動が中心となり、学校園の特色を生かした写真が展示されていました。参観者からは、「興味・関心を持っていることを上手に表現できているので

市内の学校園で運動会を開催

台風一過、爽やかに澄みきった青空のもと、九月二十一日（日）、市立学校園のトップを切って精道小学校など六校の運動会が開催されました。

それぞれの学校では、新たな工夫を凝らした演技や装飾が見られました。音楽クラブの演奏による入場行進、PTAと職員が一緒に力を合わせた演技、児童と保護者・地域が一体になった楽しい昼食時間等、児童と保護者・地域が温かく触れ合い、和やかな雰囲気でした。

騎馬戦や玉入れなどの伝統的な種目

感心した」「思わず手を伸ばし、遊びたくなるような楽しい作品が印象的でした」などの多くの感想をいただきました。

今後、一層学校園の交流を深め、広く保護者や地域との連携を図りながら、学校園の創意を生かした教育活動の充



家族連れでにぎわう第18回芦屋市立学校園自由研究・教育活動展

が始まると、ついつい保護者の方も力が入り、勝敗の行方を熱い眼差しで見つめ、自分のことのように拍手を送っていました。

保護者や地域とのふれあいの中で生涯にわたって運動に親しみ、自主的に健康な生活を実現する能力や態度がより一層はぐくまれることでしょう。



お父さんと一緒に（小植幼稚園）

今日は土曜日。空気のひんやりした朝、お母さんに混じってお父さんと手をつないで来る園児たちの登園風景は、いつにもないのんびりとした雰囲気が漂っています。お母さんは門まで。門からは、お父さんと子どもたちの世界。毎月第一・三土曜日を父親の自由参観日として、一時間ほど遊びに参加してもらっているのです。

初回は、サーキット遊び中心のプログラムでした。園庭に巧技台（多目的遊具）を出すところか

年齢を越えて交流

山手幼稚園

登園して持ち物の整理が終わると園庭では、年少児と年長児が一緒になってエンドレスのリレーが始まります。

四月から園児の横のつながりはもとより、年齢を越えた付き合いも大切にしてきました。年少児・年長児が自由遊びや行事・動植物の世話等、一緒にできるように配慮してきました。園生活で五才児は、年長ぶりを発揮します。

ふれあうブレイ

小植幼稚園

早くもお父さんたちの活躍です。マットや跳び箱、タイヤなどを組み合わせて舞台作り。園児たちは走ったり跳んだりするのが大好きです。お父さんたちに手助けしてもらいながら、起伏に富んだコースのサーキットに遊びを何度も繰り返していました。

「おもしろかった！」「もう一度したい！」列にもどって順番を待つ園児たちのきらきらした表情！園児たちは、ウルトラマンのような、巧技台からのダイナミックなお父さんのジャンプに声もなく見とれていました。

親子の共同体験や父親の家庭教育への参加を期待するこの取り組みも今年で三年目になります。当初に比べるとお父さんたちの園児たちへのかわり方は、ずいぶん上手になりました。



年少児と鉢植えを作る年長児（山手幼稚園）

四才児の手を引き、道具の片付け方、丸虫の見つけ方、リレーの仕方、野菜の切り方等ていねいに教えます。年長児は教えることで遊びや当番活動に、さらに磨きをかけ工夫をこらします。年少児はただ教えられるだけではなく、次の日から自分たちでやろうと奮い立つ意欲がうかがえます。

さまざまな体験の中で、園児たちは新しい発見や意外な出会いに驚き、喜びを感じています。友だちとのやりとりや飛び交う言葉に反応したり、影響を受けたりしながら、お互いの良さを見つけ、思いやりや自律心を培っています。

こんなやりとりがありました。年少の子たちがありを見つけ、プラスチック容器に落ち葉や土を入れ、ありを入れ、水も入れました。

「あめんぼになるんだよ」

「ならないよ。水を入れたらダメ、死んでしまうやん」

「ふうん」
年長の子どもの言うことを聞きながら、容器の中身を全部出しました。

このようにして、子供たちは日々の

あじさいの学校

精道小学校

本校は今年で百二十五歳を迎えています。校歌に「誇りを胸に学ぼうよ」という言葉がありますが、お会いする多くのかたが「私も精道小学校を卒業しました」と誇りをもって話されるのを耳にし、とてもうれしくなります。この歴史と伝統を踏まえ、児童や保護者、地域の皆さんの期待と信頼に応える学校づくりに努めています。

震災一年後に、慰霊碑「祈」を建て追悼式を行いました。以来、その前から生け花が絶えたことはありません。それを目にするたびに、命の尊さがひしひしと伝わってきます。本校では、「命を守り、助け合いの心を育てる防災教育」を進めています。その第一歩は、日々のあいさつにあると考えています。人々の好ましい人間関係をつくりだす上であいさつは欠かせることができません。このことがいざというときの防犯や防災に役立つものと確信します。

「おはようございます」「こんにちは」「さようなら」をはじめとして、「ありがとうございます」などの気持ちのよい言葉を交わすとき、自然と心が和み、爽やかな気持ちに満たされ人と人の心の結びつきが生まれます。



精道小学校で行われた防災訓練

気持ちの良いいあいさつが精道小学校にあふれ芦屋のすみずみにまで広がることを願っています。